

## Impact LX と Pro Tools

Impact LX は汎用コントローラーとして ProTools のコントロールにご使用いただけます。

ここにシンプルに設定を行うためのファイルを用意しました。  
以下はその手順になります。

### インストールと設定

1. 以下のファイルをダウンロードし、展開をします：

Impact LX49 / LX61 / LX88用設定ファイル:ImpactLX\_ProTools\_v1.0.zip  
<[http://www.nektartech.com/c.1289520/Downloads/Impact\\_Guides/ImpactLX\\_PT\\_templatev1.0.zip](http://www.nektartech.com/c.1289520/Downloads/Impact_Guides/ImpactLX_PT_templatev1.0.zip)>

Impact LX25用設定ファイル:ImpactLX25\_PT\_templatev1.0.zip  
<[http://www.nektartech.com/Downloads/Impact\\_Guides/ImpactLX25\\_PT\\_templatev1.0.zip](http://www.nektartech.com/Downloads/Impact_Guides/ImpactLX25_PT_templatev1.0.zip)>

注意:このテンプレートファイルはPro Tools 8.0以降に対応します。

2. 展開された設定ファイル:”ImpactLX\_PT\_templatev1.0.syx”をシステムエクスクループを扱えるソフトウェアで、Impact LXに転送します。以下、推奨のシステムエクスクループツールです。いずれも無料で使用できます：

#### Windows環境

MIDI OX <<http://www.midiox.com/>>

Send SX <<http://www.bome.com/products/sendsx/downloads>>

#### MAC OSX環境

Sysex Librarian <<http://www.snoize.com/SysExLibrarian/>>

Impactをコンピューターに接続した状態で、システムエクスクループツールでファイルを開き、転送を行います。ここでは、Sysex Librarianを使用した手順を紹介します。

Sysex Librarian(システムエクスクループツール)を開きます。

ファイル”ImpactLX\_PT\_templatev1.0.syx”を画面にドラッグ&ドロップで読み込みます。

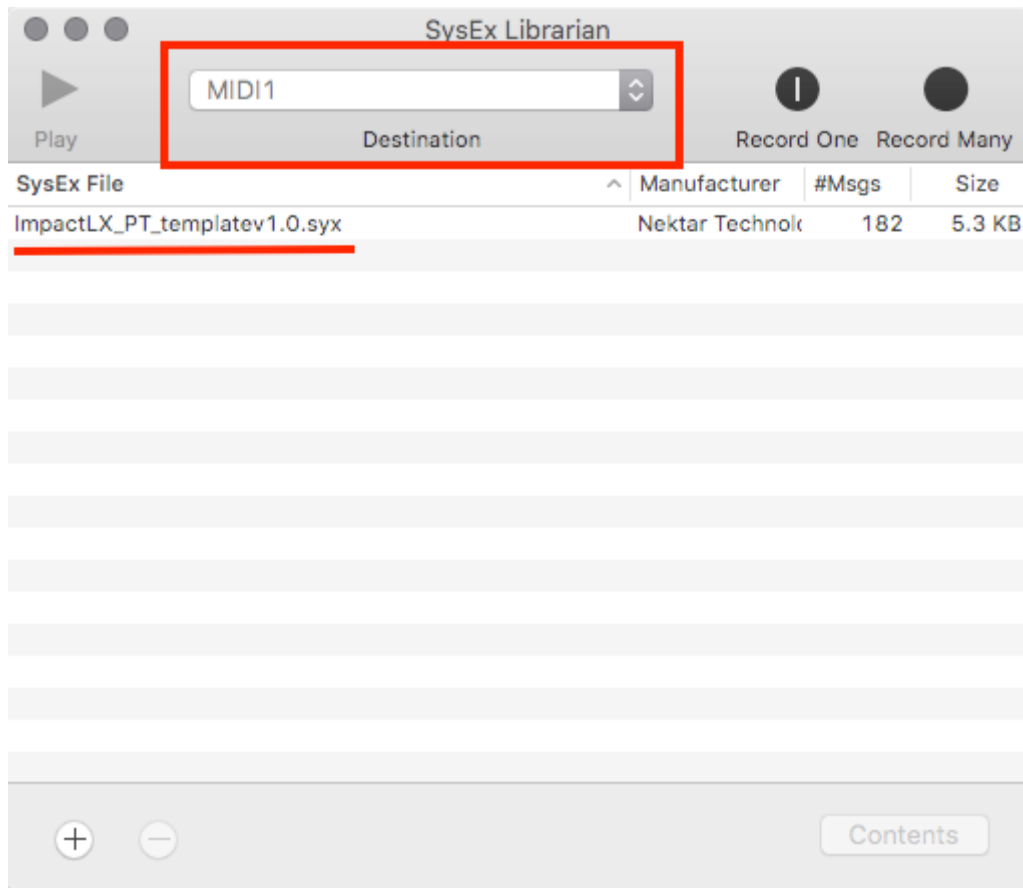
転送先のポートをDestinationの項目で設定します。例では”MIDI 1”(Impact LXのポート1)に設定。

再生ボタン(Play)をクリックします。

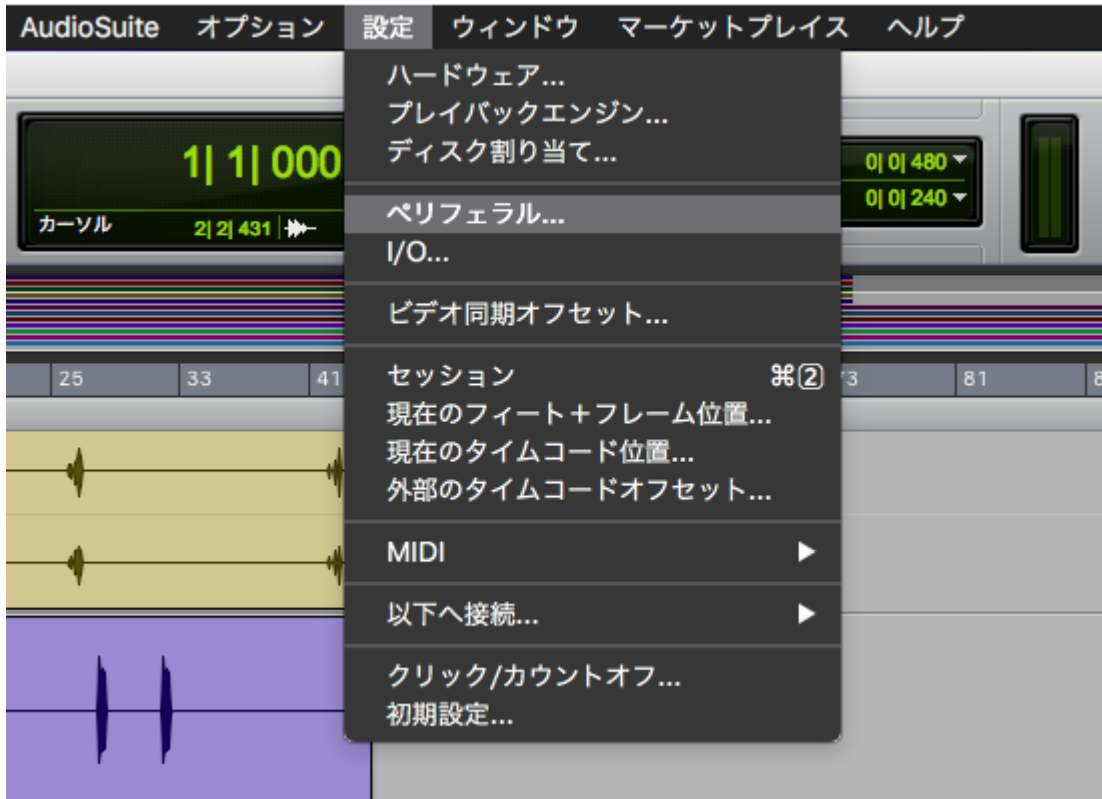
注意:システム環境によってはポートの表示名が異なる場合があります。

転送中Impact LXのディスプレイは”SYS”と表示されます。転送が完了になると、画面は自動で元に戻ります。

補足：システムエクスクルーシブはMIDI情報の1つで主にハードウェアデバイスのパラメーター設定に使用します。システムエクスクルーシブのみのMIDIファイルは拡張子”.syx”を使用し、システムエクスクルーシブに対応したMIDIシーケンサーでデバイスに情報送ります。上記のシステムエクスクルーブツールは syxファイル専用のMIDIプレーヤーです。



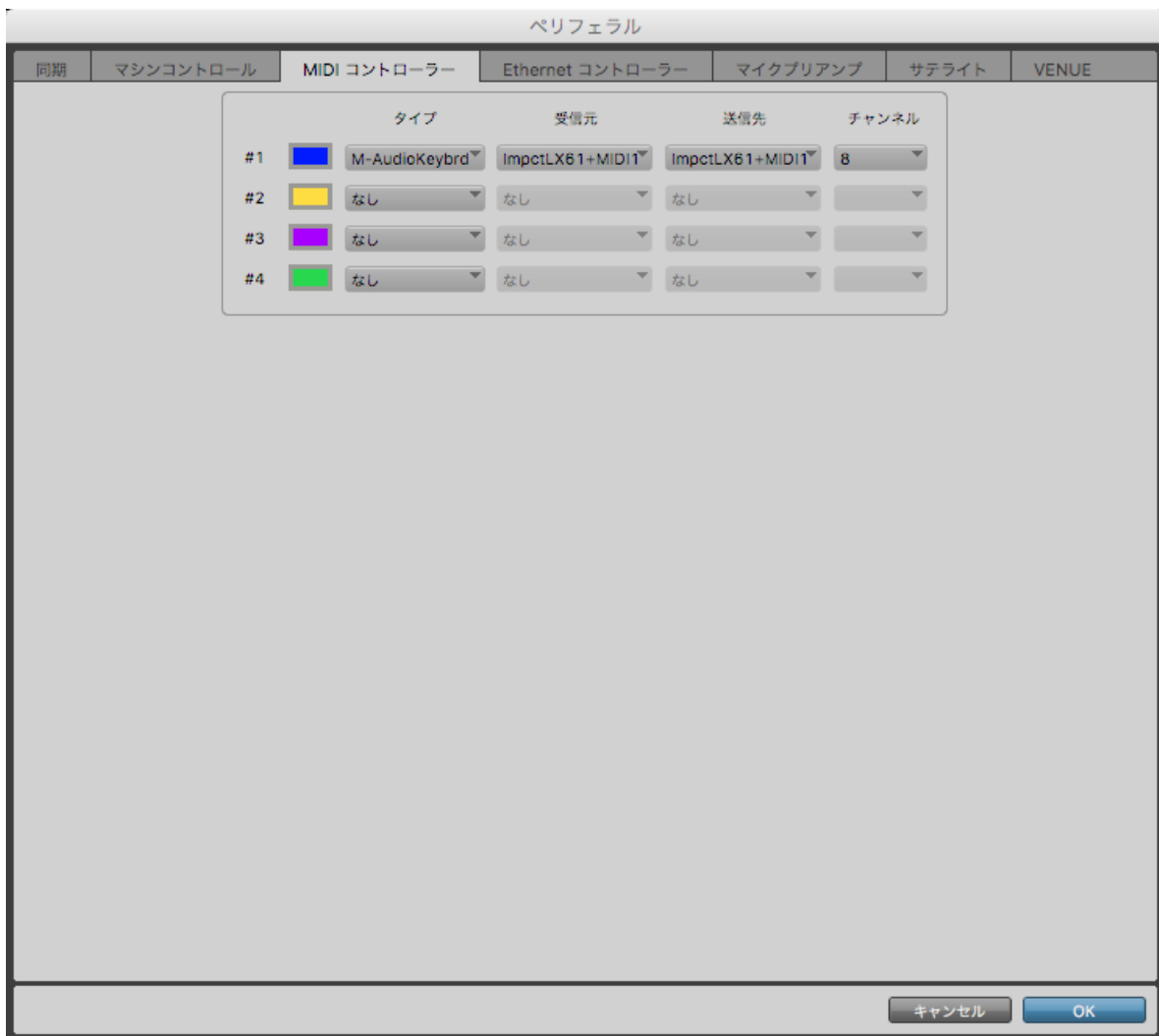
3. ProToolsを起動します。ProToolsの”設定”メニューから”ペリフェラル…”を選びます。



4. 画面から“MIDIコントローラー”タブを開き、タイプを”M-Audio Keyboard”、受信元を”Impact LX … MIDI1”、送信先を”Impact LX… MIDI1”に設定し、“OK”ボタンで画面を閉じます。

\*Windows環境では受信元を”Impact LX”、送信先を”Impact LX [エミュレーション]”に設定します。

注意: Impact LXのデバイス名表示はご利用のシステム環境、Impact LXのモデルによって異なります。いずれの環境、モデルでも”Impact LX”と表示されています。



以上で設定は完了です。実際にボタンやコントロールを操作して確認をします。万が一、連動しない場合は受信元のポート設定を再確認お願い致します。

### Impact LXで操作出来る主な機能

#### トランスポートボタン

クリック: 設定なし

<<: 巻戻し

>>: 早送り

Loop: 他のボタンとの併用で追加機能にアクセスします。

Stop: 停止

Play:再生開始  
Record:録音開始

ループボタンは次の追加機能にアクセスします:

Loop+Play:ループ再生  
Loop+Record:ループレコーディング  
Loop+Stop:アンドウ  
Loop+RW:プロジェクトの頭に戻る  
Loop+FF:プロジェクトの終端に移動

注意:ループボタン自体は何も機能しません。

### Impact LXのプリセット構成

システムエクスクルーブ転送で更新されたImpact LXはトランスポート操作のみならず、ProToolsのミキサー操作をImpact LXのプリセットを”Pr5.”にすることで可能になります。プリセットの切り替えは、Impact LXの2つのトランスポーズ(Transpose ▼と▲)の同時長押しで行います。ディスプレイ表示が変化したら、”Transpose ▲”を数回押しして表示を”PRE”にします。次にディスプレイ下の”Preset”ボタンを押し、そしてトランスポーズボタンでプリセット切り替えをします。画面表示が”Pr5.”になりましたら、プリセット5に設定されていることを表します。プリセット切り替えに関する詳しい情報はユーザーガイドの12ページに記載していますので、ご参考にしてください。

以下、”ImpactLX\_PT\_templatev1.0.syx”ファイルでアップデート後にアクセス可能なImpact LXのプリセットです:

プリセット 1(Pr1.)= ラーン機能用(Learn Friendly)  
プリセット 2(Pr2.)= GM ミキサー チャンネル1-8  
プリセット 3(Pr3.)= GM ミキサー チャンネル9-16  
プリセット 4(Pr4.)= GM 音源プリセット  
プリセット 5(Pr5.)= ProToolsミキサー

この設定は重要です。プリセットによって機能が異なります。

### ミキサーコントロール

ProToolsのミキサーコントロールは、Impact LXのプリセット5で行います。ミキサーボタンは機能しませんのでご注意ください。そしてパッドでトラックの選択や操作をします。”Shift/Mute”ボタンを押しながら、”Pad Map3”とラベルされたパッドを押して、パッドをProToolsのトラック操作に対応したマッピングモード(Pad Map3)にします。次に”Preset”ボタンを押して、Impact LXをプリセットモードにします。

Impact LXは以下のミキサーパラメーターに対応します：

フェーダー 1-8：選択されているバンクのチャンネルボリュームを操作します。

ボタン 1-8(フェーダー下)：チャンネルミュートとソロを操作します。(ボタン9 = トグルボタンで、ミュートとソロを切替えます。)

パッド(Pad Map3)で以下の機能をします。

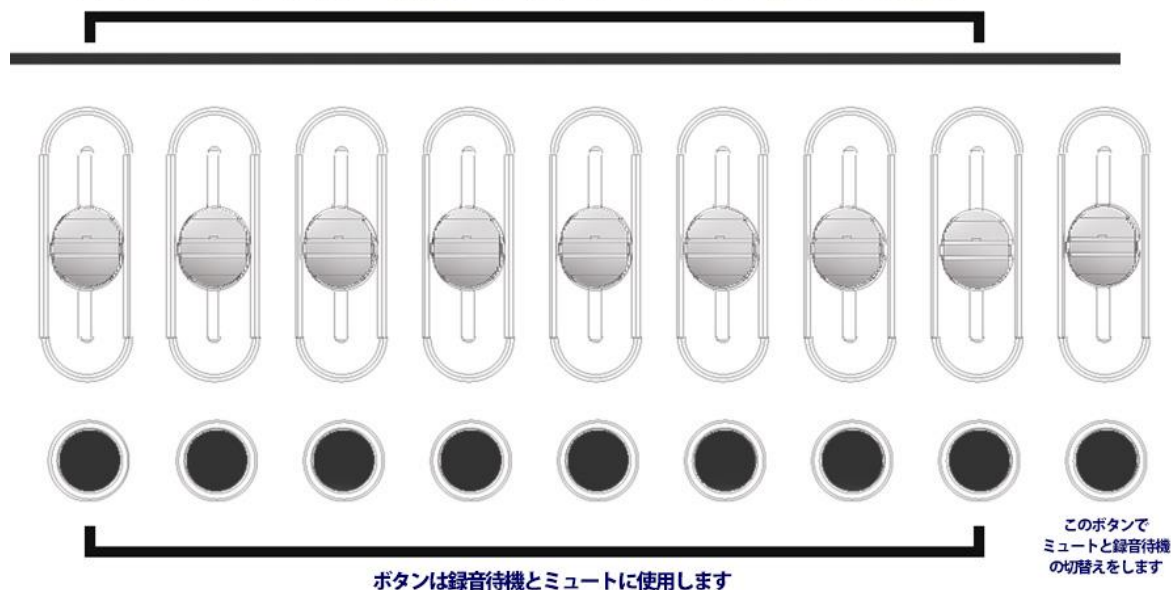
パッド 1 と 2 = トラック選択、前と次

パッド 3 と 4 = トラックバンク(1バンク = 8チャンネル)切替え、前と次

パッド 5 = 選択トラックのミュート

パッド 6 = 選択トラックのソロ

プリセット5でフェーダーはミキサーを操作します。ミキサーは1バンク=8チャンネルでアクセス出来ます



パッドマッピング3でパッドは以下のトラック操作をします



## バーチャルインストゥルメントの操作

ProTools上の音源(インストゥルメント)操作は、Impact LXのプリセット4(Pr4.)をします。ProToolsに付属するほとんどのAIRインストゥルメントはこのプリセットですぐに操作できます。XpandなどいくつかのプラグインはMIDIラーン(割当学習)機能でパラメーターの割り当てを行います。この場合、通常はプリセットモードのプリセット1(Pr1.)を使用しますが、ProToolsでは使用しないImpact LXのミキサーモードとインストゥルメントモードを利用するのも有効な手段です。”Mixer”や”Inst”ボタンを押して、フェーダーやボタン、ロータリーノブをインストゥルメントの”ラーン”機能でパラメーター割り当てと操作を行います。

### 設定例:

“Xpand”プラグインの場合、パラメーターを右クリックし、割当設定を開きます。”Learn CC”を選択し、Impactのコントロールノブを操作します。これで選択したパラメーターの設定が完了し、操作することができます。”ラーン”機能については、ご利用のプラグインのマニュアルに記載していますMIDIコントロール設定の項目をご覧ください。

また、Xpandはマルチティンバー(マルチパート)の音源で同時に複数の音色を個別に鳴らすことができます。この場合、Impact LXのプリセット2(Pr2.)とプリセット3(Pr3.)でパートボリュームとパンを操作できます。

Impact LX と Pro Toolsに関する設定は以上になります。もし、設定で上手くいかないことがありましたら、上記の手順とユーザーガイドを合わせて再度ご確認くださいようお願い申し上げます。

お楽しみいただければ幸いです。